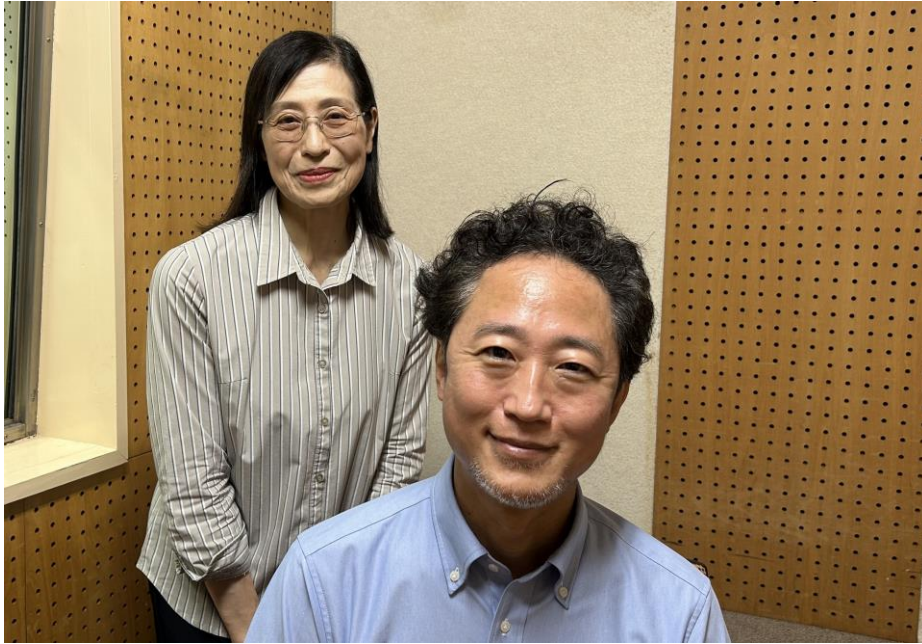


MBC ラジオ『ここが聞きたい！ドクタートーク』2025.10.4

第 1170 回放送分『眼科疾患』1 回目

ゲスト：田中 最高ドクター



二見いすず

今月のドクタートークは「眼科疾患」をテーマにお送りいたします。
お話は、鹿児島県医師会 田中 最高（たなか よしたか）ドクターです。
田中さん、よろしくお願いいたします。

田中最高Dr.

よろしくお願いいたします。

二見いすず

さっそくですが今日は何についてお話しいただけますか。

田中最高Dr.

今日はアイフレイルについてお伝えいたします。
フレイルとは病名ではなく、年齢とともに筋力や心身の活力が低下することによって、
健康とはいえないが介護を必要とするまではない、間の状態をいいます。
目においてはアイフレイルと言いますが、40 歳を超えると目も衰えはじめその状態になりえます。

二見いすず

40 歳というとなぜいぶん若いような気もしますが…。

田中最高Dr.

アイフレイルの中でもまず感じやすいものに老眼があります。
これは調節力の低下が原因となります。

早いと 40 歳ぐらいから症状が出てきます。

二見いすず

老眼以外にはどのようなものがありますか？

田中最高Dr.

目の水晶体が濁る白内障や、白目の粘膜がたるむことによる結膜弛緩症などもアイフレイルの原因です。

二見いすず

結膜弛緩症というのはあまり聞き慣れないのですが、どのような症状が出るのでしょうか？

田中最高Dr.

目に何かが入ったような異物感を覚えたり、涙がたまったり、白目がぶよぶよしているなどの症状がでます。
アイフレイルに関連する他の病気であるドライアイとも深くつながっています。

二見いすず

ドライアイもアイフレイルと関係しているのですね。
ご高齢の方でもスマートフォンが手放せない今、
加齢という原因以外にも、環境による影響が少なからずありそうですが、
ドライアイは「このくらいの状態なら眼科を受診した方がいい」とか、
逆に「このくらいだったら問題ない」などの何か基準はありますか？

田中最高Dr.

ドライアイは自分で気づきやすい病気です。
ご自分でできるチェックリストが WEB などでも広く公開されています。それらにあてはまる症状がなければ、大丈夫と捉えていいでしょう。

二見いすず

分かりました。今お話し頂いた、老眼、白内障、結膜弛緩症、ドライアイ。
この他にもアイフレイルにつながる病気はありますか？

田中最高Dr.

自分自身で気づきにくいものとして厄介なのが、緑内障と加齢黄斑変性です。
私たちの目は 2 つあるので、片方の目が衰えてきてもなかなか気づくことができません。
特に緑内障は 40 歳から増え始め、約 20 人に 1 人という割合です。

二見いすず

そんなに多いんですね。

田中最高Dr.

はい。しかも年齢とともに発症率も上がっていくので、
できれば毎年検診をして、チェックされることをおすすめします。
来週以降は、アイフレイル関連の中でも問題となることの多い、
白内障、緑内障、加齢黄斑変性についてお伝えいたします。

二見いすず

よく分かりました。
今月は、「眼科疾患」をテーマにお送りいたします。
お話は、鹿児島県医師会 田中最高ドクターでした。
田中さん、ありがとうございました。

田中最高Dr.

ありがとうございました。